

令和7年度 自己評価表 坂町立坂中学校 ～「本気で生きる」～

中期経営目標	短期経営目標	評価項目(具体的な取組・方策)	評価指標	参考値 (令和6年度)	目標値 令和7年度	実績値		評価 (自己評価 の結果)	成果と課題	改善策
						中間	最終			
【確かな学力】 主体的に学び、これからの社会に必要な学力を身に付けた生徒の育成	基礎的な学力の定着	・「わかった!」「できた!」が実感できる授業づくり(特別支援教育の視点) ・ドリルタイムの充実 ・安心して学べる学習環境の確保	①生徒アンケート「先生の授業がわかる」 ②標準学力調査での全国平均を上回った教科数	①85.0% ②13/15	①85%	①87.2%	①89.2%	B	○「先生の授業がわかる」生徒の割合が89.2%であった。中間より2%増加し、目標の85%を超えることができた。	・昨今、若手教員が増えている現状を踏まえ、互いの授業を参観、交流する機会を確保し、生徒の「わかった」「できた」が実感できる授業づくりを組織的に進めていく。 ・授業づくりについて全教職員でそろえることをまとめた「授業の土台」を年度当初の職員研修で周知徹底し、生徒の基礎学力の定着を個々の教員に任せるのではなく、学校全体で目指していく。
	これからの社会に対応した学力の定着	・ICTの効果的な活用による個別最適な学びの充実 ・評価基準を示した振り返り活動の充実 ・校内研修の充実(協働的な学びや個別最適な学びについて)	授業づくりにかわる校内研修の実施回数	新規	2回以上	2回	6回	A	○授業づくりに係る校内研修を6回実施できた。 ①4月6日:成績処理、進路指導の振り返り ②6月4日:特別支援教育の視点 ③6月26日:ICTの効果的な活用 ④8月22日:全国学力学習状況調査について ⑤10月15日:授業の振り返りとその評価 ⑥1月8日:授業のめあての見直し	・来年度も引き続き、校内研修等によって、教師の指導力を向上させ、これからの社会に対応した学力の定着を図る。 ・論点整理(国の指針)を参考に、来年度は協働的な学びと個別最適な学びの一体的な充実についての研修を仕組み、主体的に考える生徒、深く考える生徒の育成を目指す。
【豊かな心】 自らを律し、自分や友だち、家族やふるさとを大切にすることを心をもった生徒の育成	礼節の向上 ・挨拶 ・黙動清掃	・全教職員による日々の粘り強い指導 ・委員会活動など生徒の自治活動の推進	生徒アンケート ①「自ら進んであいさつしている」 ②「隅々まで丁寧な掃除をしている」	①新規 ②新規	①90%	①91.4%	①89%	B	○「あいさつ」について肯定的評価89%のうち、「とてもそう思う」と答えた生徒が、61%と半数以上だった。 ○「掃除」についても、肯定的評価96.8%のうち、「とてもそう思う」と答えた生徒が、61%と半数以上だった。	・教職員が生徒より先にあいさつをすることにより、生徒のあいさつに対する意識も上がっているように感じる。今後も継続したい。 ・掃除についても、慣れがでている生徒もいるため綺麗になっている箇所や、頑張っている生徒を紹介していき、更に意識を向上させていきたい。
	自他を大切に する心の育成 ・レジリエンス	・防災教育・平和教育の推進 ・わいがやタイムの充実 ・部活動の充実 ・教育相談の充実	生徒アンケート「自他を大切に行動できる」	97.7%	95%	98.1%	99.0%	A	○肯定的評価が99%と、高い数値であった。	・クラッシュ&ビルドを意識し、生徒や教職員の負担を減らしつつ、取組をより良いものにしていきたい。
【たくましい体】 社会で生きて働くためのたくましさをもった生徒の育成	心身の健康の保持増進	・各種たよりによる保護者・生徒への啓発 ・部活動の充実	生徒アンケート「目標をもって部活動に取り組んでいる」	新規	80%	86.3%	87.1%	A	○昨年度の部活動に関するアンケートの最終実績値は81.6%であり、今回は87.1%と昨年度を上回ることができた。	・継続して、顧問及び部活動指導員が生徒につきまわることにより、生徒の様子や状況を把握する。 ・部活動指導員と密に連携し、円滑に部活動を運営していく。
	基本的な生活習慣の定着	・各種たよりによる保護者・生徒への啓発 ・SNSやゲームの使用に係る指導	生徒アンケート「各家庭で決めたスマホ・タブレット等を利用する時間を守っている(TV・ゲームを含む)」	65.6%	65%	65.6%	68.9%	B	○過去3年間で最終実績値が1番良い数値であった。 ○生徒指導主事、管理職、担任、便り等様々な視点から事前指導できた。 ●年間を通して、SNSのトラブルが数件起こっている。	・啓発を繰り返していきとともに、生徒の実態の把握に努める。
【信頼される学校】 保護者から信頼される学校づくり	積極的な情報発信	・ホームページや一斉メールによる情報発信 ・電話や家庭訪問を通した日常的な保護者との連携	保護者アンケート「坂中の教育活動に満足している」	89.3%	87%	88.3%	88.9%	B	○学校通信や行事予定等、随時ホームページにアップするとともに、不審者情報等の緊急を要する事案については、一斉メールを使って迅速に発信した。 ○担任や顧問を中心に、電話や家庭訪問を通じて、密に連携した。	・ホームページや一斉メール、通信等を通して、学校の様子や生徒の姿をタイムよく発信していく。また、行事や授業参観等、保護者に来校していただく機会を学期に2回以上設定する。 ○引き続き、教職員全体で、丁寧に保護者対応を行っていく。
	主任層を中心とした活力ある職員集団の形成	・運営委員会等を活用した人材育成 ・面談等による役割や研修内容等の確認 ・管理職による日々の声掛け ・時間外勤務の適正管理	①教職員アンケート「子供と向き合う時間が確保されている」 ②時間外勤務が年平均月60時間を超える教職員	①92.3% ②新規	90%	100%	100%	B	○年間を通じて、全教職員(100%)が、「子供と向き合う時間が確保されている」と感じることでできた。 ●時間外勤務時間の平均が60時間を超えた教職員が1人であった。(R8.1.30現在)	・今後も、主任層がリーダーシップを発揮しつつ、学校を支える全ての教職員が、それぞれの強みや適性等を生かすことにより、校内の活性化につなげていく。 ・日々の業務において、見直しをもって遂行できるよう、主任を中心に声かけをしたり、部活動での顧問の参加形態を工夫したりしていく。

【自己評価 評価基準】 A:目標は十分達成された(目標値+5%以上) B:目標は達成された(目標値±4%) C:目標は達成されなかった(目標値-5%以下) D:目標は全く達成されなかった(目標値-10%以下)